



花のしおり

石川県立金沢伏見高等学校
図書委員会
平成31年3月15日発行

図書だより
127号

弥生（三月）

「弥生」は、草木がいやがうえにもおい茂る季節を意味する「いやおひ」から生まれた言葉。

春の訪れとともに、草が萌え、木々が芽吹く。

うららかな日差しに誘われ、眠気を誘う「夢見月」。

またの名を「桜月」、「花見月」。これは待ち遠しい桜を恋い慕う呼び方でしょう。

日ごとに暖かくなってきて、新しい季節を迎えるための準備が始まります。

読みたかった本や、偶然見つけた本など、図書室に来て本を借りて読んでみてください。

本から新しい知識を吸収したり、楽しみを見つけてリラックスしてみましょ。

そんな春休みを過ごして、次の学年を迎えてはいかがですか。



（『心ときめくことばの12か月』参照）

春休みの貸出について

春休みの間、図書室の本の貸出について、期限と冊数を変更します。

3月18日（月）から

貸出期限 4月10日（水）まで

貸出冊数 1人5冊まで



2週間の休暇を利用して、興味を持った本を自由に選んで、じっくり読書してみてください。

BOOK OF THE YEAR 2018

今年一番支持された小説はこれ！

2018年最も輝いた本を紹介します。下線は図書室の所蔵本です。（「ダヴィンチ」2019年1月号より）

1位	<u>下町ロケット</u> ゴースト 池井戸潤	9位	<u>屍人荘の殺人</u> 今村昌弘	17位	<u>青くて痛くて脆い</u> 住野よる
2位	<u>ファーストラブ</u> 島本理緒	10位	<u>オリジン（上・下）</u> ダン・ブラウン	18位	十二大戦対十二大戦 西尾維新
3位	<u>未来</u> 湊かなえ	11位	<u>たゆたえども沈まず</u> 原田マハ	19位	おらおらでひとりいぐも 若竹千佐子
4位	あやかし草紙 宮部みゆき	12位	彼方の友へ 伊吹有喜	20位	<u>ピブリア古書堂の事件手帖</u> 三上延
5位	<u>そして、バトンは渡された</u> 瀬尾まいこ	13位	<u>キラキラ共和国</u> 小川糸	21位	<u>西郷どん！（前・後）</u> 林真理子
6位	花だより 高田郁	14位	インド倶楽部の謎 有栖川有栖	22位	<u>未来のミライ</u> 細田守
7位	<u>ののはな通信</u> 三浦しをん	15位	アルスラーン戦記 16 田中芳樹	23位	烏百花 阿部智里
8位	<u>魔力の胎動</u> 東野圭吾	16位	<u>おまじない</u> 西加奈子	24位	凶犬の眼 柚月裕子

本屋大賞候補作品 (4月9日発表)

2019年の本屋大賞候補作です。図書室に所蔵していますので、読んでみてください。

『愛なき世界』

三浦しをん



恋のライバルが人間だとは限らない！風変りな理系の人々とお料理男子が紡ぐ、美味しくて温かな青春小説。

『ひと』

小野寺史宜



両親を亡くし、大学をやめた二十歳の秋。でも、ひとりきりじゃなかった。青さ弾ける傑作青春小説！

『火のないところに煙は』

芦沢央



「怪談を書きませんか」突然の依頼に、作家の「私」は、かつての凄惨な体験を振り返る。戦慄の暗黒ミステリ！

『そして、バトンは渡された』

瀬尾まいこ



四回も血の繋がらない親の間をリレーされた十七歳。だが、彼女はいつも愛されていた。身近な人が愛おしくなる、感動作。

『ベルリンは晴れているか』

深緑野分



戦勝国による侵略、敗戦。何もかもが傷ついた街で少女と泥棒は何を見るのか。圧倒的スケールの歴史ミステリ。

『さざなみのよる』

木皿泉



小国ナスミ、享年43。その死は湖に落ちた雫の波紋のように家族や友人、知人へと広がり——命のまばゆさを描く感動と祝福の物語！

『ある男』

平野啓一郎



人はなぜ人を愛するのか。夫であったはずの男は、まったく違う人物であった…。平成の終わりに世に問う、衝撃の長編小説。

『ひとつむぎの手』

知念実希人



人として一番大切なものは何か。若き心臓外科医に課された困難を極めるミッション。医療ミステリーの旗手が挑むヒューマンドラマ。

『フーガはユーガ』

伊坂幸太郎



優我はファミレスで一人の男に語り出す。双子の弟・風我のこと、子供時代のこと、兄弟だけの特別な「アレ」のこと。僕たちは双子で、僕たちは不運で、だけど僕たちは、手強い。

『熱帯』

森見登美彦



『熱帯』は、奇妙な本だった！東京で始まった冒険は京都を駆け抜け、満州の夜を潜り、数多の語り手の魂を乗り継いで、いざ謎の源流へー！